

福島公論

発行日 十月十日 世
定 價 一 部 金 五 銭
発行所 福島縣平町南七二

酒は
未廣に限る
志賀吟吾
電話五九〇番

社説

現下日本の社會相は紛亂渾沌状態である。昭和聖代に強く正しく明るく生きんとする純真なる青年者にとつて現代の世相は不快極まりなき幾多の不祥事を以つて充たされて居る。

今や白日下に暴露された昭和五大疑獄事件の如きは國家代表的武人、政治家社會代表的紳士實業家の偽善的仮面は剥落され、心ある一般大衆は旋風の驚異に顛倒し、社會上層的人物に對する大衆の尊敬と信頼は甚だしく低下し、所謂思想國難、經濟國難、政治國難殺到の世相となつた。失業苦を血叫する群は巷に溢れ、生活難を痛嘆する勤勞大衆は都市、田園に洪水状態を呈す。生活不安、社會的危機は脚下に殺到しつゝある。今にして狂瀾を既倒に返さずんば邦家の國運民命以て如何せんとするぞ。思想悪化の原動力は奈邊にあるか深觀内省すべきである。若しも前記社會上層の國家代表的人物の惡徳非行がその一因ならば斯くの如き人々の猛省を促してやまぬものである。

石城財界を擾亂する

岡本魔殿の

カラクリ暴露

石城地方諸商人四拾名の金額實に拾六萬常套的手段を以つてペテンにかけ財界を擾亂させんとする岡本魔殿に破産の申請刑事訴訟を提起され合法的の罪惡も白日下に暴露されるであらう!!!

經濟難局石城炭田の不況最近の深刻なる環境の刺激に支配され金融界の王盤銀も休業の己むなきに到り今や辛ふじて之の不況に對する切抜け策に没頭し況んや商を以つて誇る石城地方も斯くしたる衝動に逢ひ四苦八苦の状態を來し居る今日又々土浦の岡本儀兵衛に石城地方商店四拾名より甚大なる金額の統略に遭ひ塗炭の苦しみに呻吟する慘狀を顧みず逸早く銚子邊りの妾婦宅に姿を消し居るは何等事か法律的にも道徳的にも良心の苛責なき背徳漢を本社は善き人の爲めに味方となつて筆誅を加ふるものである。

土浦切つての黄金の殿堂手に引受け彼獨特の計画的套的を以つて獨特を誇る奸詐も岡本儀兵衛を知つての猿智恵が石城地方諸商人手段もいつ迄も續くたう茨城切つての經濟界の大建四十名より酒、味噌、醬油か近き將來には明るみに曝物として記憶する事は米其の他總額拾六萬圓餘をけだされ罪惡によつたる金俵たぬ然し彼は假面を被りペテンにかけ知らぬ顔の半にて榮華樂華を誇つたる魔土浦地方の自己の經濟隱閉兵衛をきめ込み俺のやる藝殿も一朝の夢となる事だろ信用保護の腐心の結果當は位の調子で胡魔化したうがあらゆる狡智をしぼり出るか磐炭より取引納入品代因に石城一帶諸商人の關係終いに磐炭重役と因果關係全額を受取り土浦に逃げ本に對する債權金額の内譯係あるの結果か糧食部を一戻つたのである然し彼の常を略記すれば

湯本長岡米店 三萬圓
平 馬目米店 二萬圓
内郷馬目酒店 一萬八千圓
高久一鈴木酒店 二萬圓
平 市原商店 六千圓
平 大竹酒店 一萬三千圓
内郷鈴木味噌店 八千圓
四家酒店 六千圓
遠藤米店 七千圓
平 窪村松本酒店 五千圓
平 松本徳一酒店 八百圓
平 猪狩商店 一千七百圓
平 釜や商店 三千五百圓
平 阿部商店 一千三百圓
外之の略記したる金額
數萬に上る斯くしたる事に
よつて諸商人の經營苦は言
ふに及ばず引いては石城一
帯の財界に恐慌的影響を
深刻に波及させたとして顧
みる非人道的罪惡と反商
業道徳的處置は天人共に許
し難く而して去る七月三十
一日岡本儀兵衛と諸商人四
十名代表馬目太平治との間
に取換したる覺書を摘記す
れば實に虚偽の諸商人を胡
魔化した事は表示して
ある参考迄に

納入代表
馬目太平治殿
今後左記方法を實行する事
誓約したるものを以つて覺
書に作製し速急その實現を
期し申し候也
一、土浦町天王松霞ヶ浦埋
立地を昭和五年八月拾
日以内に買却しその買
却金の内金三萬圓也を
提供すること
尙買却單價上騰により
剩餘ある場合は更に金
五千圓也を追加提供す
る事
二、右殘債務は龍ヶ崎町田
中政之助同町田中秀太
郎の兩名保證する事
但し本證書作製の際債
務支拂の期限を定むる
三、殘金は今糧食部取扱
の獨立會計とし手数料
中より取扱所の諸經費
控除殘金を積立置き支
拂金に充つるものとす
昭和五年七月三十一日
茨城縣土浦町四百
九十番地
岡本儀兵衛
磐城炭礦株式會社糧食部
糧食部に各位が納入せられ

護歩をなし血涙を呑んで殘金は十年間無利子年賦償還の取決めとなつた。讀者諸君！最近捲き起きたる此の事件を嚴正に批判對して取り敢えず金參萬圓して如何なる感慨を抱かるか！
馬目太平治殿、今や石城の經濟は恐慌状態にあり、幾萬石城人の生活への切迫したる金融を深ではいか！然るに今も尙買却單價上騰により剩餘ある場合は更に金五千圓也を追加提供する事
右殘債務は龍ヶ崎町田中政之助同町田中秀太郎の兩名保證する事但し本證書作製の際債務支拂の期限を定むる
殘金は今糧食部取扱の獨立會計とし手数料中より取扱所の諸經費控除殘金を積立置き支拂金に充つるものとす
昭和五年七月三十一日
茨城縣土浦町四百九十番地
岡本儀兵衛
磐城炭礦株式會社糧食部
糧食部に各位が納入せられ

覺書
磐城炭礦株式會社糧食部
糧食部に各位が納入せられ

公正

論議

磐炭が直接石城諸商人より品物納入し居つたものが重役連中の因果關係から岡本に一手購買販賣を許可し甚大なる金額を略取されたる事に對し法律的に責任がなくとも商業道徳的には看過し居る事が磐炭として出來得まい。

所得調査委候補者

剛直正義の士

阿部唯次郎氏

今次の所得調査委員選挙に際し民政黨公認候補者として既に立候補を宣し、堂々鹿を陣頭に進めつゝある阿部唯次郎氏は故諸橋久太郎氏の實弟にして思想堅實常に正義に立脚し曾て町議の榮職にあるや氏が把持せる豊富なる識見と剛毅なる思想とは町當局並に三十町議をして其心膽を寒からしめ以て町政革新の爲め私心を離れて盡瘁せられたるは正に周知の事實なるを以て、若し夫れ一度氏の當選を見んか氏獨特の快腕は必ずや多數納税者各位の期待を満足せしめ得る事敢て疑を容れざることを確信す、今や氏は同町四丁目より有力なる猪狩庄平氏の出馬と更に隣接三丁目より是れ又後援多數を擁する柏原幸次郎氏の進出に逢ひ腹背挾撃の中間に座す最も苦戦の状態にあり然れども多數同志は勿論氏の親戚知己は悲壯なる奮闘を持續し居るを以て氏の當選は蓋し確實と見られつゝあるも更に一段の努力を要すべく從て有権者各位の絶大なる後援を熱望して謁まざるものである。

立憲民政黨公認

所得調査委員候補者
人格崇高なる

赤津修一氏

所得調査委員は國家財政の基調に關する重大職責で而かも其の調査は納税者の直接利害に關係あるものなるを以つて至公至平でなければならぬ立憲民政黨石城部會から公認候補者として敢然出馬されたる赤津修一氏は郡南勿來町に於ける素封家にして其醸造に係る銘酒醉の郷及都々逸大黒屋として知られ新人である氏は中學校卒業後銀行其他各種の事業に貢獻し目下前記醸造業並に幾多の公職に有り且又産業方面の事業に關係し常に奮闘努力の地方信用高き篤望家である。殊に氏は地方稀に見る正義を振かざし剛氣果斷にして敢て奢らず。たかぶらず鋭意目的の前には何ものもなく邁進する有爲なる眞人格の持主である若し候補者に定員を越ゆることありとするも苦境の立場にあるが氏の如き人格の士を當選の榮冠を擔わしむるは該委員選出の目的を完成せしむるものである。有権者諸士の奮起と共に堂々たる戦陣を張り奮戦力闘する事を冀ふものである。

推薦狀

謹啓時下秋冷の候益々御清適之段奉賀候
陳者來る十六日執行せらるる可き所得調査委員選挙に際し本部會は多年地方に於て公職に就かれ公共事業に盡瘁せられたる前記の諸君を最適任者と認め候補者に推薦し其快諾を得申候何卒御賛成の上大多數を以つて當選の榮を得せしめらるゝ様御援助相仰ぎ度切に御願申上候 敬具

昭和五年十月

立憲民政黨福島縣支部石城部會

所得調査委員候補者

阿部唯次郎君

同補充員候補者

荒川淺次郎君

所得調査委員候補者

赤津修一君

同補充員候補者

成瀬巴三君

立憲民政黨公認